

# STAY OR GO

2006.6.11 発行

# SUMIKO

# Ammonite chair



Live の日はワクワクして落ち着かない自分がある。

もう何年もこの BAND の LIVE に足を運んでいるのにも関わらずここ最近アンモナイトチェアーの LIVE の日を指折り数えちゃうような恋愛初期にも似た感覚。それもかなりの重症ぶりを発揮している。LIVE が始まった瞬間はいつもニヤリとしてしまう。もう、自分の中で嬉しさが抑えきれなくなってしまうのだ。

粉碎骨折が治り指使いに気をとられなくなったギターの Sentimental Journey は足を蹴り上げたり、ギターのパリウムを上げたりと熱のこもったステージング!!それを観ているだけでもたのしい。

一時期トタンを闇雲に叩く感じの三浦の力任せのドラミングは、アンモの楽曲によって聴き手側の心の奥に訪れる静けさを壊しがちであった。それが「ドラムを叩く」から今は「リズムを刻む」に変化し、しなやかなドラムを聴かせる。それを一番感じるのは「HAVANA」。以前は勢いで登りつめる印象が強かった楽曲が、リズムの気持ちよさで聴かせる曲になった。ドラムステックの流れる様を観ているだけでもあきない。精進の賜物。

三浦と共に重いリズムを作り出すベースの小穴。曲全体を引き締める役割を無言で引き受けている。長年、長めだった髪をさっぱり切った事にさえ、心機一転の心意気を勝手に感じてしまうほど今のアンモナイトチェアーは LIVE 毎に変化がある。その成長とも呼べる変化はボーカルのカネコの世界を拓け深める。

カネコ自身に感じていた儂さが一掃され彼の瞳が精気に満ち溢れてきた。熱さの対極にいるように思っていたカネコにエナジーがみなぎっているのだ。カネコの独特の世界観に芯の強さを備えたらバンド自体の骨組みがグッと強くなった。

毎回新たな発見があつて魅せられっぱなし。LIVE 中ドキドキしっぱなしでアンモナイトチェアーとの時間はあつと言う間に過ぎてしまう。

だけど LIVE が終わって「あ~終わっちゃった」と寂しい思いにかられたり「もっと!もっと!!」という物足りなさはない。

聴き終わった後に静寂が自分の中に残って、満たされた思いでいっぱいになる。

夢中になっている間に日常生活でどうあがいても、ざわざわしていた心が徐々に落ち着いて、まっさらになっている。それは、巷で流行っている「癒される」なんて言葉じゃ到底追いつかないし「リセット」なんていう都合の良い言葉とも違う。

昔からこの BAND をみると自分のやりたいこと、こだわっていたこと、いらぬもの etc が一気に整理されて視えてくるのはなぜだろう? 娯楽なんて星の数ほどある時代に何とか時間を作って LIVE に足を運ぶのは、やっぱりアンモでしか味わえない充足感や、自分を突き動かすものが確実に存在するからだろう。

**\* 次回 LIVE \***      **6.18 (SUN) 渋谷サイクロン**  
**6.29 (THU) 千葉 LOOK**